

隙を縫う

コンテキスト 敷地は片町伝馬商店街を中心とした一帯である

自然環境

この地域は、大野庄用水と、犀川に挟まれた地域であり、美しい水景が望めることに加え風が吹き込み、水の音が聞こえるなど川と生活が密接な地域である。一方で建物間距離がほぼ0であることや市街地であることを要因として緑に乏しい。

商業

片町の端に位置しており夜間営業の飲食店が多く立ち並んでいる。一方で、片町大橋側から離れるにつれ住宅が増えていく。片町伝馬商店街の知る人ぞ知る飲み屋街と標榜しているように、建物の彩度が低いなど過度な装飾が見られないこと、街灯が少なく店舗の光が街路を照らしていること、それによって店舗内部が装飾と化すことなど、繁華街ながら落ち着いた街並みが特色である。

歴史

この地域は、江戸時代には馬を留め付ける伝馬町として発展した。そのため、この地域には多くの2階建ての町家風もしくは町家の建物が存在する。片町の中心部に近づくともビルが増えていく。古い建物と新しい建物、2階建ての軸組木造と5階建てのRC造など様々な建物が混在する一方で、江戸時代の街区の名残は残っており、狭い街路や間口の狭い建物、平入屋根などとして町の風景に表れている。

交通

敷地周辺の道は住民の生活道路や飲食店の搬入路として機能している。一方で、片町の中心部へと向かう抜け道として使われており帰宅ラッシュの時間帯になると渋滞して非常に歩きにくく幅のせまい道路も相まって自転車や歩行者にとって非常に通りにくい道になっている。

モチベーション

動機

この地域の課題として

- ・通りぬけ交通と狭い幅員を要因とした歩行者・自転車にとって通りにくい道である
 - ・夜間営業の店がほとんどであり、昼間には開いている店舗が少なく人がおらず、そのため昼間には賑わいが感じられず、閉塞感を感じてしまう
- といったことを要因に昼間の賑わいが無い

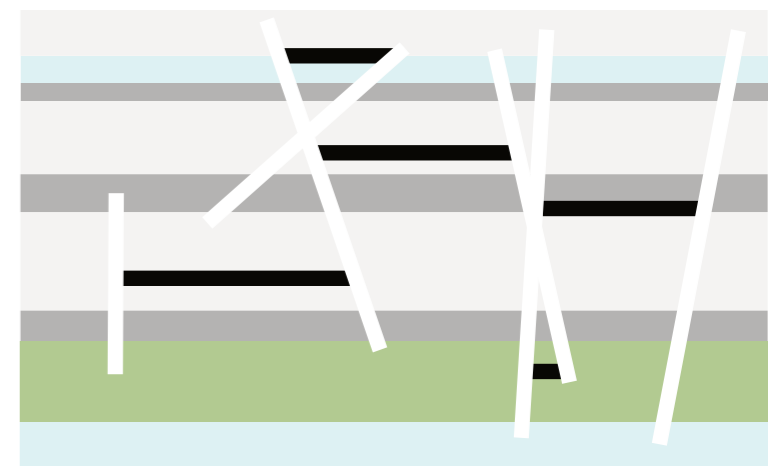
- ・川から近いにもかかわらず商店街中心部から川側へアクセスする道が少ない
 - ・建物の隙間が少なく川側への視線が抜けにくいことを理由に川の存在を感じることができない
- といったことを要因に川によって生まれる魅力を十分に生かすことができていない

- ・川側を表面とする飲食店が少ないことや川側を裏面とするビルが多いことから川の魅力があるにもかかわらず裏通りのような様相を呈している。

といった問題がある

必要性

歩行者にとって通りやすい動線、昼間に賑わいを与える建築、「川や用水」と「通り」、各通り同士の心理的接続が必要である。



複数の道路や街区に対して直行方向に通路を挿入しそれらを結ぶように街区と平行方向に通路を配置することで既存の心理的に離れていたそれぞれの街路を結び付け街区に点在する魅力が結びつけられる。これにより街区全体が界限化される。既存の建築を破壊し新たに建物を建てるのではなく、隙間に通路を貫入させ、まちに新たな動線を与えることで生まれる新たなネットワークがまちに新たな魅力と賑わいをもたらす。



川沿いの通路と空中通路が階段で接続されており、通路、公園、用水が層状に見える。



用水沿いのおりにはアーケードのような屋根を作ることで建物の一部が道に張り出しているように感じさせた。道路空間の所有者をあいまいにすることで明確にされていた道路、用水、商店街の心理的な境界を薄くした。



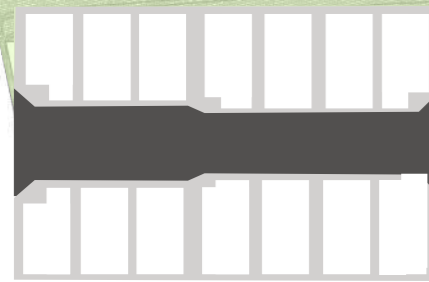
- ・大野庄用水は街区の中をうねり通っており用水の水は流れているがその先が見え隠れすることでその先への好奇心を引き出し人々を引き付けている。
- ・そこで、大野庄用水沿いではうねった通路を設ける。それにより、伝馬商店街へと人々を誘う。また、用水をまたぐようにして川の両側に通路を通すことで用水と向こう岸、伝馬商店街に一体感を持たせる。
- ・用水の上の部分では水の近くへと通路が下がることで地域の魅力である用水が身近な存在となるようにした。



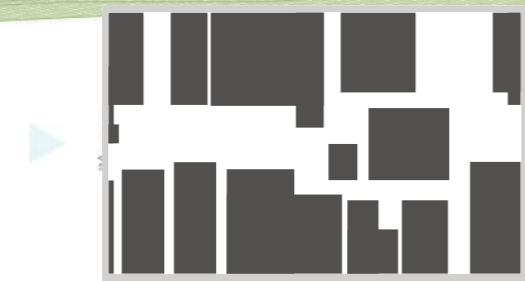
この場所は用水、公園、駐車場、空中通路等様々な要素が交差する場である。円状の緑地や円をくりぬいた緑地を配置し、上部には曲線を描いた空中通路、グラウンドレベルでは用水へとアクセスする道を作った。これらの要素を結び付けるものとして抽象的な格子状のフレームを要素すべてがそのフレームに貫入するように配置した。格子状のフレームは建物や植栽といった要素とその背景を1ピクセルとして混ざり合っているように見える効果もある。立体的にもフレームを配置し空中通路と地面を結び付けた。



全体1階平面図 1/250



既存の建物では官が規定した道路によって形が決定される



この通路は、民によってつくられた建物によって形が決定される

民によってつくられた建物により決定された形の通路は、住宅のヒューマンスケールなつくりが反映される。また、明確な境界線が存在しない。そのため互いに配慮しつつモノがおかれるなど民と公の曖昧な空間となり互いにはみ出すことのできる場となる



空中通路・建物前の通路、用水それぞれの延長線となるような方向の屋根を楕円状の屋根に貫入させることで新橋側の入り口としての役割を果たす。



自然が曲線を描く通路の周りに絡みついて一体化している。



用水、大通り付近のビル、屎川を連続する空中通路を通して共通する要素を与え結び付けている。

特徴

面積が小さく、人通りの少ない静かな通りに面している。周囲には住宅が多く、周囲の住民への配慮が必要である。これらの場所には、比較的開放性の必要のない音を立てず、音の立たない環境が求められる用途を与えるべきである。

用途

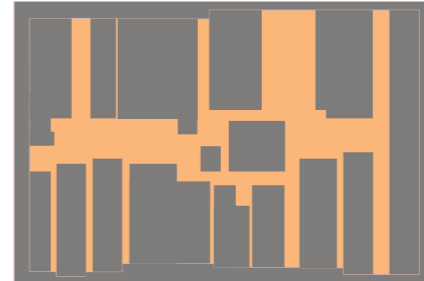
開口が求められず静かな環境で静かに過ごす、ワーキングスペース兼自習室とする。近くには、遊学館高校等の学校があることや片町等の商業地域もあることから学生・会社員の需要は十分に見込める。

特徴

面積は中程度であり、通路と建物の合間に立地している。他の通りに比べ歩行者が少ないと思われる。安全性を求められる用途を与えるのに適している。用水にも近く、用水付近での活動への拡張性がある。

用途

突発的な飛び出しや転倒があっても大きな事故になりにくいことから子どもや老人が過ごすような用途を与えるのに適している。また子供は、近くにある用水でも遊ぶことができ、自然環境・地域環境に接する場としても有用である。そこで、ここには子育て支援施設・ワークショップスペース・遊具スペース・お年寄り向けの寄り合いスペースといったような用途を与える。



既存の建物は、江戸時代から続く地割やその地域の地形など歴史・社会・自然環境等その地域の固有の文脈によって外形が決定されている。そのためその隙間に建築を建てることで、その地域の物理的なコンテキストや特徴・魅力を既存の魅力を増やさず引き出すことができる。また隙間を縫うことで地域全体が一体化することにつながる。

● 空中通路

● 階段・スロープ

● 改築・増築の広場・店舗等

● 犀川側テラス兼空中通路

● 円環空中通路



全体2階平面図 1/250

特徴

この建物は開口が広いこと、犀川に面していることから、外部に対して大きく開かれており自然の風や木々を楽しむことができる。そのため外部に対して開かれた空間を持つ長期滞在が可能な用途を与えるべきである。

用途

周囲にも飲食店があることから昼間営業のカフェとする。地元住民の交流の場やカフェの営業時間外の活用を考慮し、コインランドリーを併設したランドリーカフェとする。また近くにスロープがあるため洗濯物の運搬にも比較的便利である。

特徴

この建物は開口が狭い一方で、犀川に開かれ風や緑、せせらぎを感じることができる。横方向に広く、分割することで複数の店舗や用途を与えることもできる。そこで空間の柔軟性が必要な用途を与えるべきである。

用途

空間の柔軟性が求められるイベントスペースとする。河川敷にも面しておりイベントの際には河川敷を使った活動も可能である。

特徴

比較的開口が広く、木造軸組工法の建物である。1階部分には飲食店が入っている。通りを結ぶ回遊性の高い場所でありスペースが連続することから、滞在時間は短い。そのため目的を持たない人でもよれる場であること、短時間滞在の用途を与えるべきである。

用途

滞在時間が短く金銭を払わなくてもいることのできるショップ等の入る物販スペースとする。ショップ等が連続することで町を練り歩くような感覚を味わうことができる。

特徴

かなり大きな面積を持つ。空中通路の交差点に面していることや空中通路側、道路側のどちらにも面していることから人がたまりやすい場である。

用途

人の集まりやすい交差点であること、広い面積を持つことから地元住民と通行者・旅人等の交流の場である交流スペースとする。地域に関する情報が掲示されていたり、コンシェルジュによって町に関する説明が受けられる。また、ここで地域住民と知り合い地域のおすすめの店や場所などを教えてもらうなどの交流も生まれる。角部は楕円状の広場とする。

特徴

通路に対して幅広く接し奥行きが浅い。比較的成形な間取りである。木造軸組の建物の一部であり、1階には飲食店が入っている。どちらも前は開けた場所である。

用途

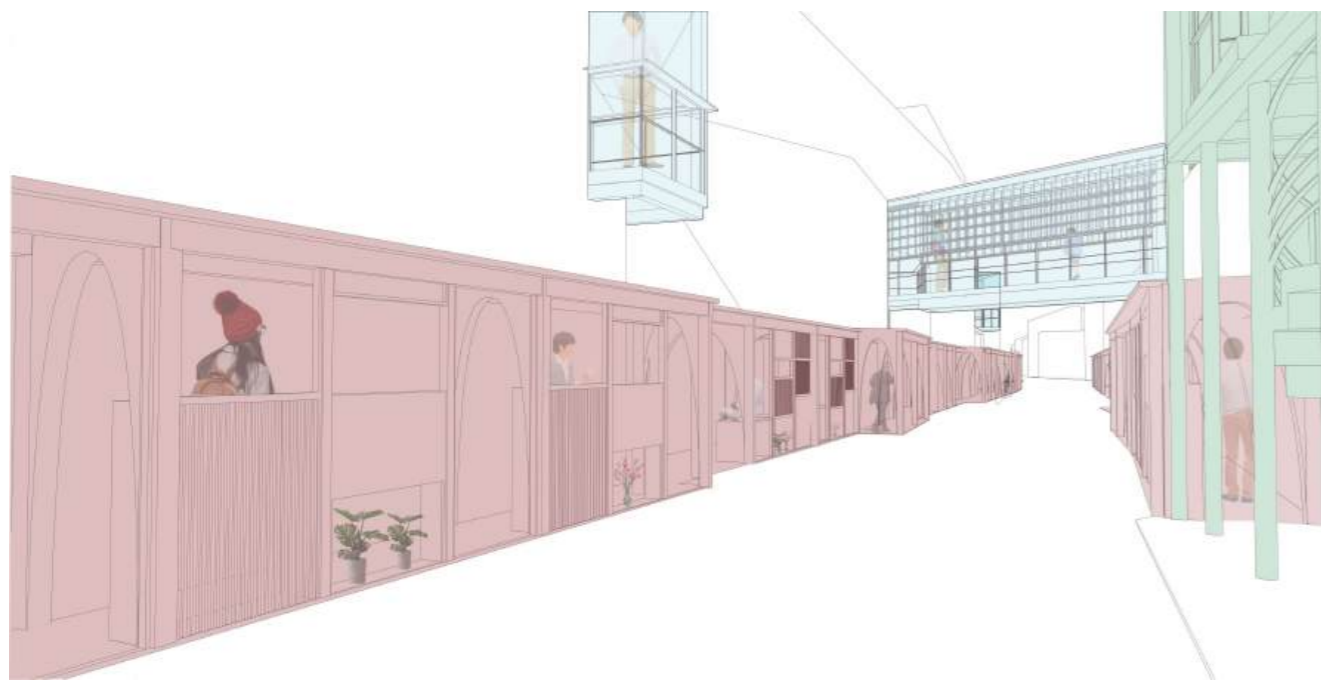
通路の途中部分にあることから、休憩スペース兼貸出スペースとする前は開けていることや開口が広いことから間仕切り等で場合によって分割することができ、通路の途中部分にあることから休憩スペースを設けることで人のたまり場を角部に作るができる。

特徴

ビルの一部に貫入する場所である。犀川にも開かれている。ビルであるため天井が高く、柱スパンが大きい。そのため空間の柔軟性が高い。また、犀川大橋からも見えやすい場所にある。

用途

空間の柔軟性、天井高が求められるギャラリースペースとする。また、ファサード部分に芸術作品を飾れば犀川大橋からも人を引き付ける。



既存の町の魅力を参照し良さを引き出すための背景あるいは縫い合わせる糸としてのパブリックスペース



店舗改築平面図 1/100

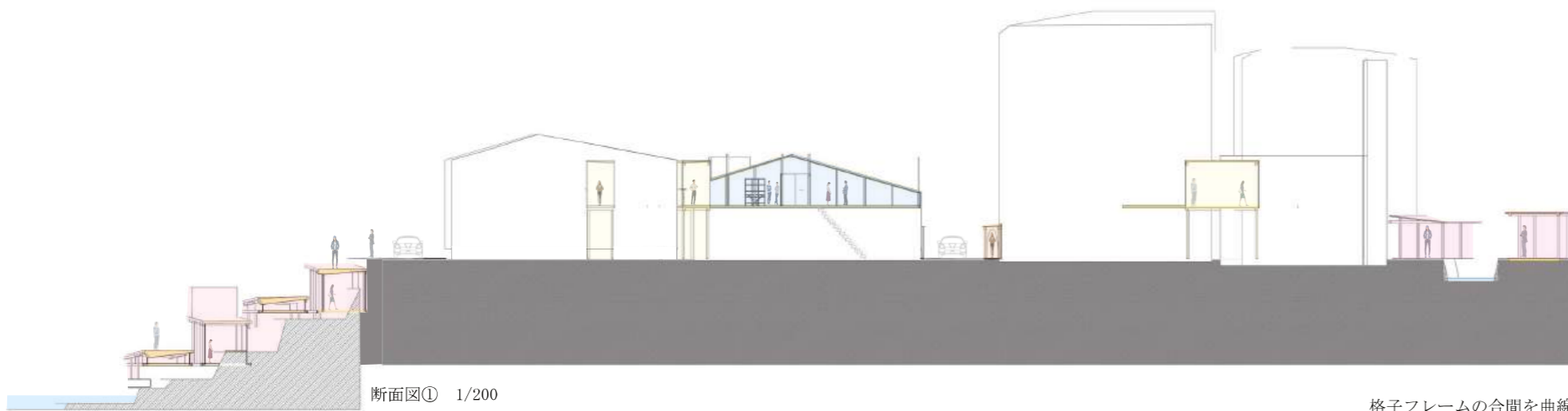
- ・空中通路に面した既存の建物の2階部分の一部を昼間の賑わいを作るためのスペースとして新たな機能・用途を与える。
- ・用途によっては既存部分と新たな用途を与えた部分は可動間仕切りで仕切り、場合によっては開放できるようにする。
- ・間仕切り上部に壁を作らないことで空間に一体感を持たせる。
- ・床仕上げは外部と内部を一部連続させることで境界をあいまいにして物や人がはみ出し賑わいが通路と建物の境界をあいまいにさせる。



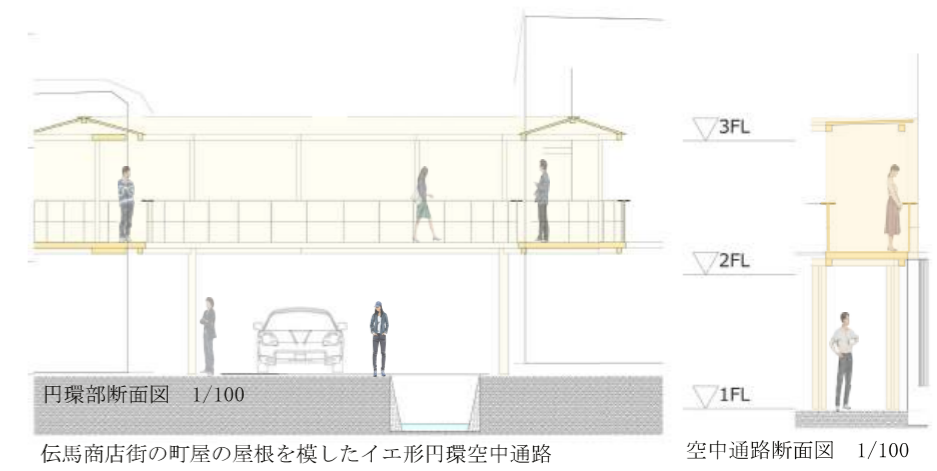
30cmの手すりはその場所に肘をついたり、ものを置いて作業したり、買った飲食物を置いたりすることが可能にする。利用者は手すりを利用して街並みを眺めることができる。通路は単なる通り過ぎる場所から人がたまる場所へと変わる。



断面が縦長の格子フレームを下が住宅の裏庭である部分にかけることで斜めから見たときに下が見えにくくなりプライバシーが守られる。



断面図① 1/200



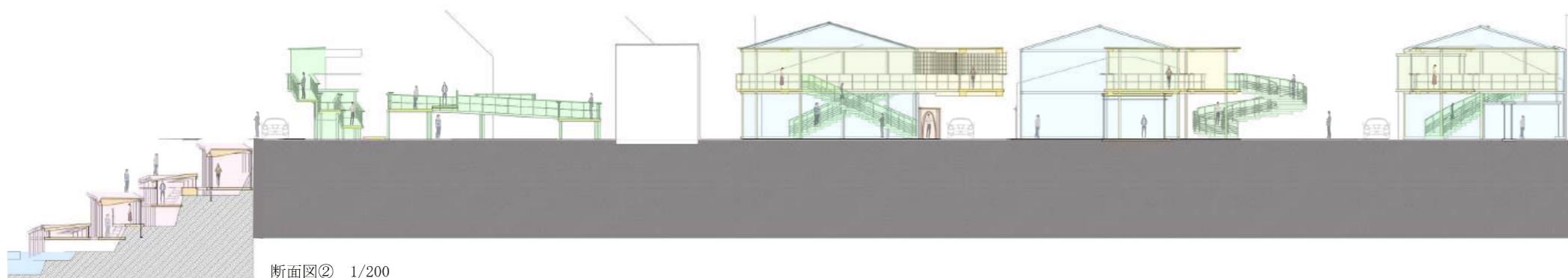
円環部断面図 1/100

伝馬商店街の町屋の屋根を模したイエ形円環空中通路

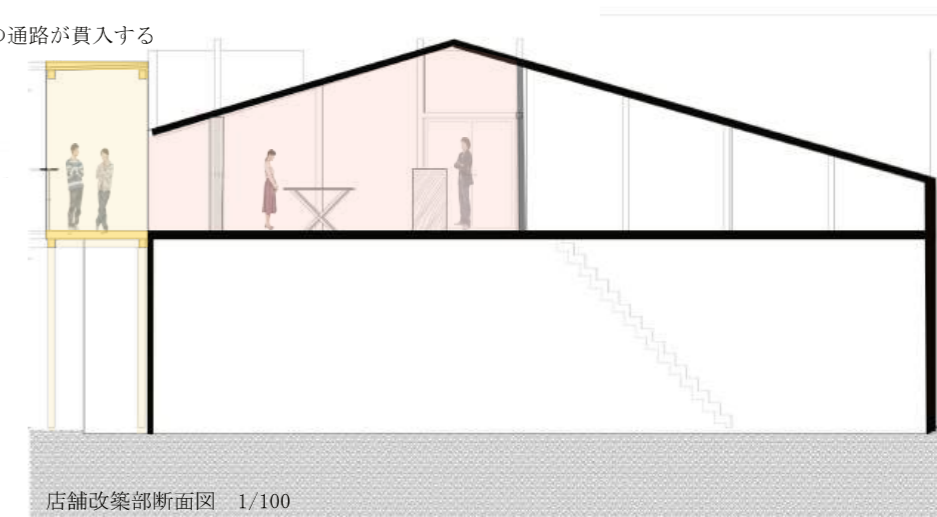
空中通路断面図 1/100

これらの建築は、地域全体をさまざまなレベルで覆っている。それぞれの建物や人が隙間から見え隠れしたり、建物を通して向こう側が見えることでまち全体は一体化される。同じ要素が少し形を変えて様々な場所をとることで町は一体化されているように感じられる。レベル差は街の見え方に変化をもたらす新たな魅力発見につながる。新しい地盤面としての地形的建築である。

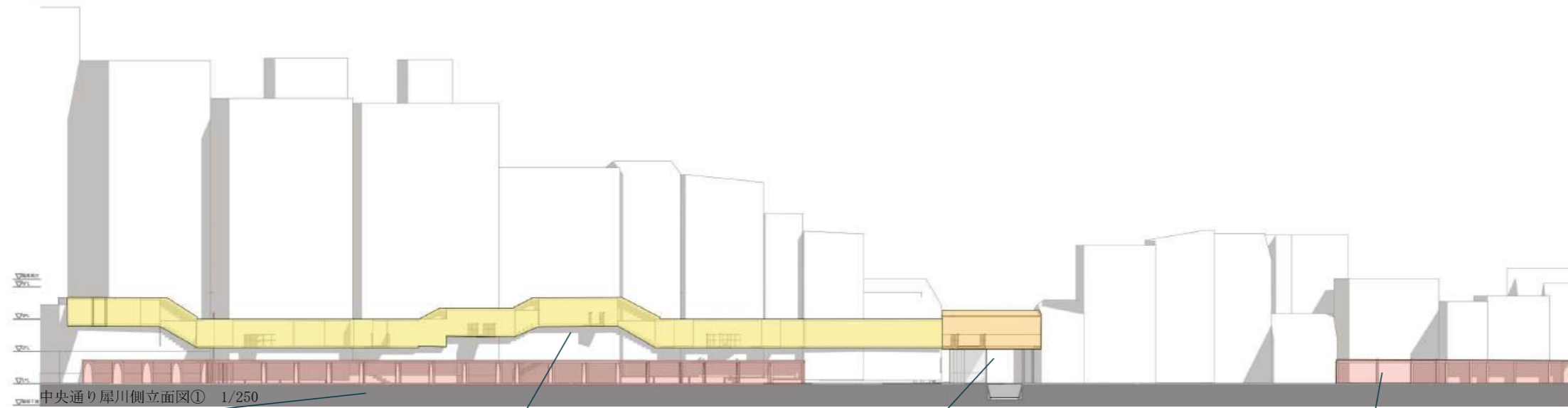
格子フレームの合間を曲線の通路が貫入する



断面図② 1/200



店舗改築部断面図 1/100



中央通り犀川側立面図① 1/250



通路の一部の柱スパンを広く取り、楕円の屋根をかけることで1空中通路の下を広場化している



道路上に通路が通り町ではそこを通る人々の姿が層状になって見えることで人々はその通路へ惹きつけられる。



ジグザグの通路によって通路の先で歩く人が層になって見え、同じ道を歩くものとして街の一体感を感じられる。



通路の一部では通路幅が変化しており広い場所では人々が歓談し、狭い場所では声を掛けて通りそこから会話が始めるといったように場所にあわせて通路の性質を変化させている



四角いフレームによって人々と通路、背景を1フレームを通して見えるようにして異質な印象を与えずフレームに収め同化させている。また、ツタ植物を絡ませ町に緑を加えている。



円環の空中通路は様々な角度で接続する通路をヒエラルキーのない形でつなぎ合わせどの通路にも等しく人が引き寄せられるようにしている。



空中通路の交差部に楕円状の広場をつくり、それぞれが等価に繋げられるようにした。また楕円は円としての求心性を持ちつつ、明確な中心を持たないため、広場に賑わいが分散しやすい



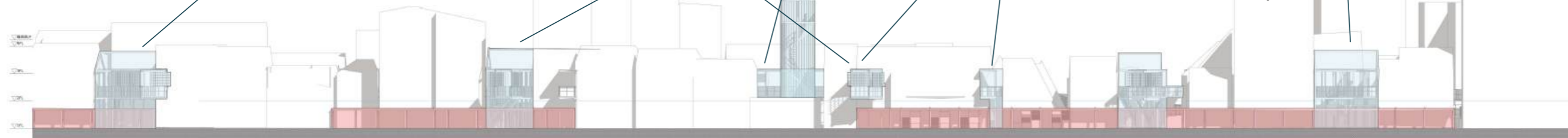
公私の一部にパネルを貼ることで展示台や掲示板として使うことも可能である



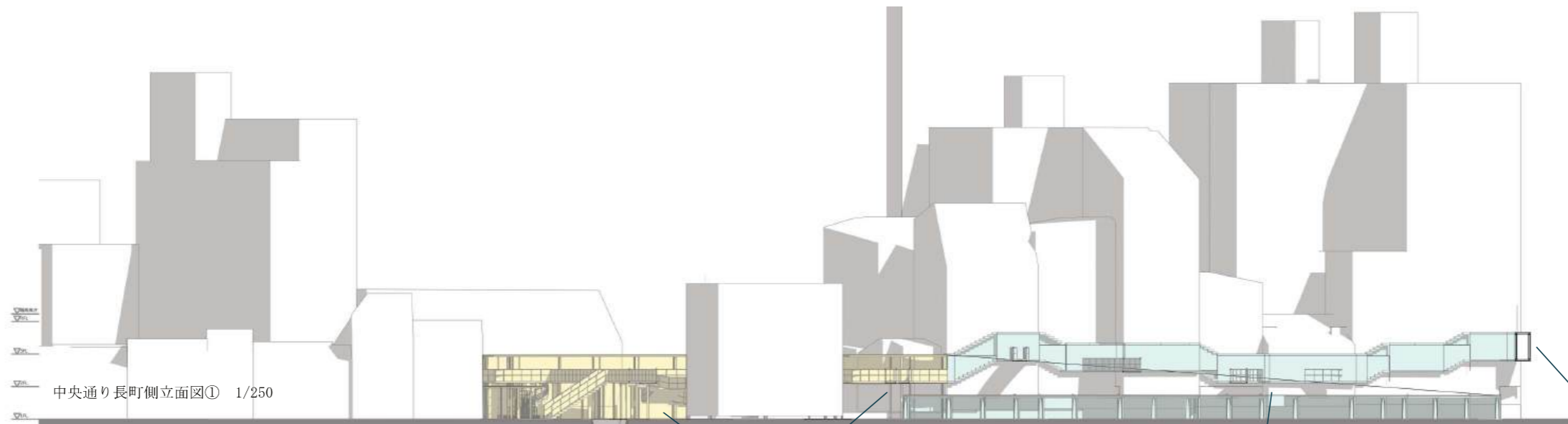
幅が広く広場としても使える階段、幅の広い螺旋階段、弧を描いた階段など様々な階段の造形を通して人々が上り下りしたり、通路を通る様子を見ることができる。階段やスロープを単なる上り下りの場ではなく人を引き寄せる場や人が集まる場にした。また、このような立体的な移動は金沢特有の段丘に面している犀川のほどりでも見られる。



空き地部分には町家の形を模した抽象的なフレームを配置し、町と連続して自然に町へと空中通路が貫入しているように見せている。



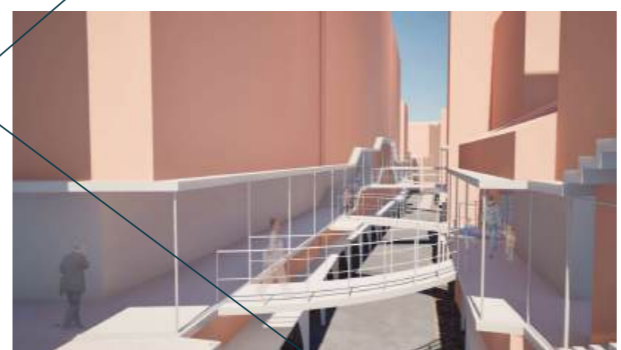
中央通り犀川側立面図② 1/250



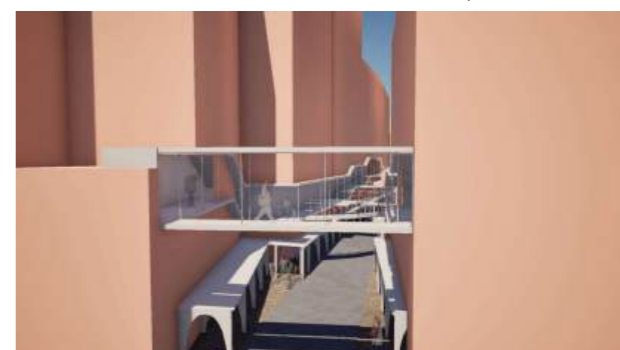
中央部は曇りガラスでできている。ファサードが時間帯や天候によって開閉し光が外へと漏れ出す。時間帯によって見え方が変化する伝馬商店街特有のファサードのような建築である。



円環は、外側の縁と内側の円の中心をずらすことで通路の幅を変え、それぞれの場所の特性によって人々が自然と使い分けがなされるようになっている。



片町付近のビル群では建物の表面部に通路を半分埋まるようにして設置する。都市になじみつつ、それぞれを結び付ける効果がある。片町方向からの導入としての役目も持つ。



空中通路を通る人々が片町側から見え、人々を引き寄せる門・商店街の導入としての役目を果たす。一方で、建築物の存在感は薄くし、あくまでも人が主体であるように見せる。



高見槽のような場所を空中通路の途中に作る、人々はここを上ることでまち全体を見渡したり、のぼりながら様々な角度でまちを見る。また昇っている様子を周囲から見上げられる。



自由曲線を描いたスロープを伝って人々は空中通路へと入っていく。のぼるなかで、通路の反対側を通る人を見たり中心に歩きやイベントを様々な角度でとらえる。



らせん状のスロープ中心の気を通して町を様々な角度で見ることができる、らせん状に徐々に上がっていくことで先への期待感が高まる。



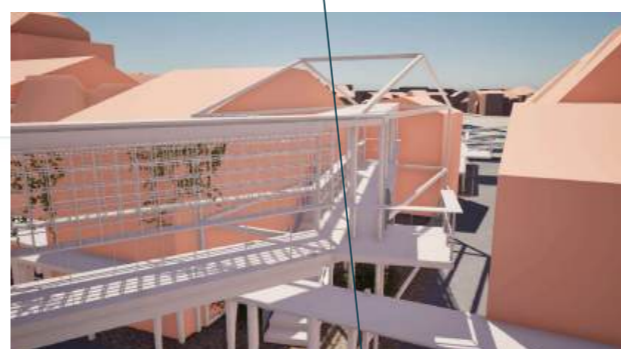
町割りを象り町の痕跡を残すスロープである。途中にはテラス部分があり、川を望む場や木に触れられそうな場など様々な場が用意され広場のようなスロープである。



伝馬町の怪しく光る店先の看板のように街区を照らす行燈としての公共トイレを設ける。緑系の軒下で人々は集まりや住むことができる。



木に触れられそうな位置に通路があり町と自然を縫合する。また、木が周囲の住民のプライバシーを守る。

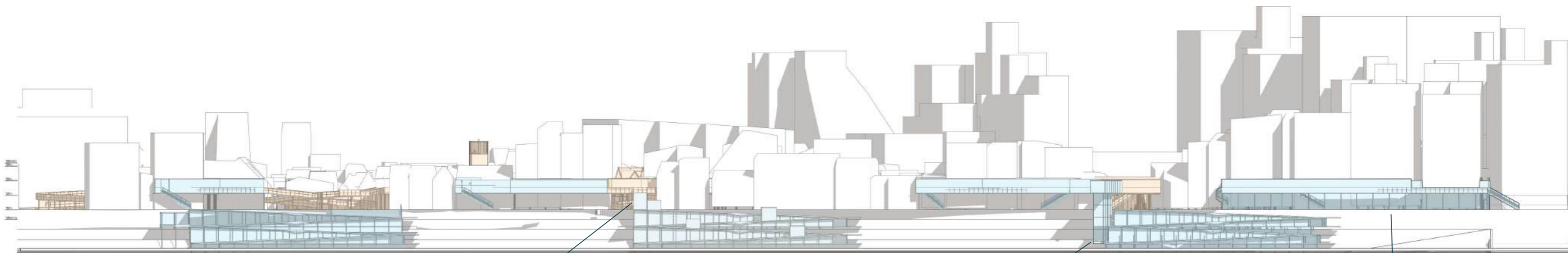


通路を挟んで反対側の人が昇り降りする様子を見ることができる。



通路の途中にはガラスの箱のようなスペースがありここに物販や公共スペースなどの用途を与え空中通路の途中にも町を一体化するための機能が与えられる。

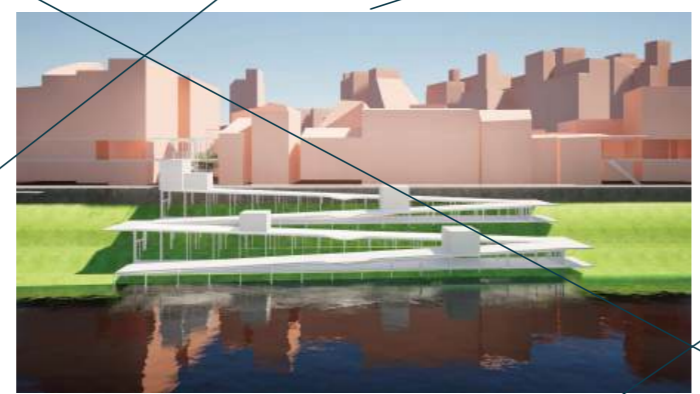




犀川側立面図 1/250



奥のスロープのあるスペースと連続するように階段が設けられている。スロープの途中には屋根付き・円形の段差の広場があり、段差に座って水景を楽しむことができる。



町側の空中通路とつなぐ螺旋階段のボックスをもとにそれが連続するようにしてスロープの上部にならんでいる。それぞれの内部にはベンチがある景色を楽しむことができる。



一部が水面に張り出しており、水面に触れることのできるくらい水面と近い。



片町付近のビル外面部にはテラス兼通路が張り巡らされている。室外機や非常階段、雑な地面仕上げのこの場所を魅力的な水景を見れる場として編集し、川と町を結ぶ場とした。



このスロープは中央部分の川側の天井が沈み込んでおり沈み込みを伝って上部からスロープのへこみを通って水が川へと流れ込むようになっている。川と町を水という要素を伝って結びつけている。



円環の空中通路から川へと通路が貫入するようにして伸びている。ここから川や町の景色を望むことができる。存在感の薄い階段は建築を背景として人が川へと降りていく様子を町を背景にみるることができる。また視覚的にも町と川のつながりを強烈に感じさせる。



スロープの下部分はイベントスペースやカフェスペースなどのある屋内空間となっている。一部地形が貫入することで地形と建築の衝突が起きこの場所の地形を強く感じることができる。柱間は空中通路と同じつながりを感じられる。



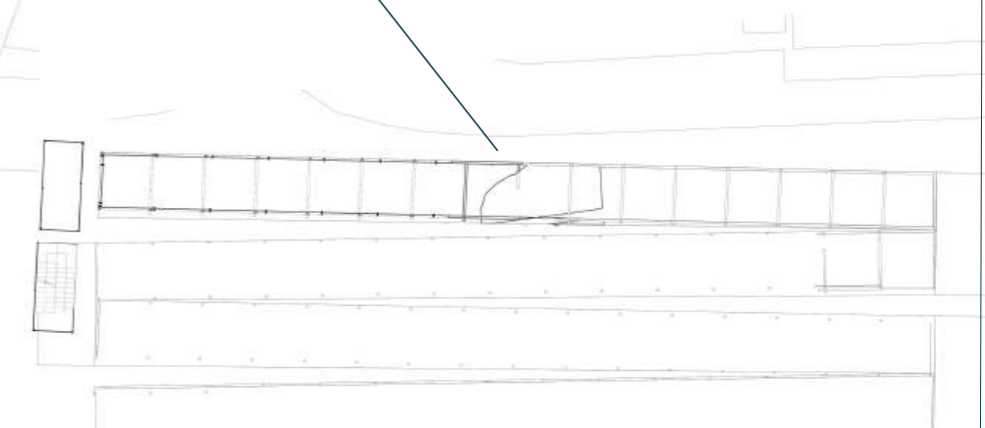
スロープによって徐々に川へと下っていくことができ、町と犀川を結び付ける。内部から見るとスロープを降りている人を町を背景にみることもできる。冬には、白色が雪と同化する。春には、芝生の上に積もって雪のような、北陸の原風景のような様子を見せる。



犀川河川敷建物①平面図 1/100



犀川河川敷建物②平面図 1/100



犀川河川敷建物③平面図 1/100